

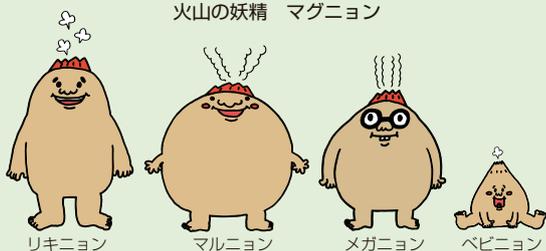
令和3年度 決算のあらまし



目次

- 3年度の主な事業実績・・・P1
- 3年度決算の状況・・・P3
- 一般会計決算額の内訳・・・P4
- 健全化判断比率と資金不足比率・・・P7

マグマシティ PR キャラクター
火山の妖精 マグニオン



あなたとわくわく



令和3年度の主な事業実績

「市民のための市政の実現」に向け、次の6つの基本目標に重点的に取り組みました。

1 市民と行政が拓く 協働と連携のまち

① かごしま移住支援・プロモーション事業 〔12,240 千円〕

新型コロナウイルス感染症の影響等により地方移住に関心が高まる中、本市での新たな暮らしを希望する方に対してオンライン相談や移住奨励金の交付等に取り組み、本市への移住促進を図りました。

② 個人番号カード交付事業 〔393,860 千円〕

休日交付等の拡充など、個人番号カードの円滑な交付及び取得促進に取り組みました。



③ 第六次総合計画策定事業 〔13,498 千円〕

将来における本市のあるべき姿と進むべき方向について基本的な指針となる第六次総合計画の基本構想及び前期基本計画を策定しました。

④ おくやみコーナー設置事業 〔8,157 千円〕

死亡に伴う各種手続の専用窓口（おくやみコーナー）を本庁舎内に設置し、市民サービスの向上を図りました。



このほかにも、次の事業を行いました。

- SDGs推進事業 ○EBPM 研修事業 ○市ホームページ自動翻訳導入事業 ○行政改革推進事業
- 行政デジタル化推進事業 ○相談等業務オンライン化推進事業 など

2 水と緑が輝く 人と地球にやさしいまち

① 新南部清掃工場（バイオガス施設・高効率発電施設）整備・運営事業〔7,875,348 千円〕

「ゼロカーボンシティかごしま」の実現に向けて、令和4年1月に、バイオガス施設と高効率発電施設を生かした運営となる新南部清掃工場の供用を開始しました。

② ゼロカーボンシティかごしまPR事業 〔9,171 千円〕

「ゼロカーボンシティかごしま」の実現に向けて、国民運動「COOL CHOICE」と連携した取組を進めたほか、市民や事業者などへの情報発信を行い、市域全体の機運醸成を図りました。

③ ごみステーション整備費補助金〔3,534 千円〕

町内会等が整備するごみステーションの助成対象を拡大し、周辺の更なる美化を図りました。

④ ミルクボランティア活動支援事業〔480 千円〕

動物愛護管理センターに収容された幼齢な猫の命を救うため、飼養に精通した市民（ボランティア）に、幼齢な猫をミルク等の飼養資材とともに譲渡し、人工哺育の協力を依頼しました。



このほかにも、次の事業を行いました。

- 北部清掃工場ごみ焼却施設基幹的設備改良事業 ○都市公園安心安全対策推進事業 ○剪定枝資源化事業
- 美しいまちづくり推進事業 ○みんなで取り組むごみ減量PR事業 ○ゼロカーボン市役所に向けた電力量等調査事業
- 森の力でかごしま“グリーン化”事業 など

3 人が行き交う 魅力とにぎわいあふれるまち

① 新型コロナウイルス感染症対策時短要請協力金事業〔828,164 千円〕

県による飲食店への営業時間短縮要請に応じた事業者に対して、県と連携し協力金を支給しました。

② 県外観光客宿泊キャンペーン事業 〔81,482 千円〕

コロナ禍における観光振興策として、観光客向けの宿泊キャンペーンを実施しました。

③ プレミアムポイント事業〔142,883 千円〕

新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けている飲食店を支援するとともに、地域における消費の喚起・下支えを行うため、市内飲食店の電子決済での利用に対しプレミアムポイントを付与しました。

④ 修学旅行誘致事業〔6,807 千円〕

コロナ禍において、修学旅行のさらなる誘致を図るため、新たにガイドマップの作成や旅行会社への補助を行うとともに、観光施設等の利用料無料化を実施しました。

⑤ コロナ対策関係者会議経費〔180 千円〕

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止しながら、地域経済の回復を図るための施策について、関係団体等の意見を伺い、施策に反映させるための会議を開催しました。

⑥ かごしまワクワク体験推進事業〔38,549 千円〕

コロナ禍における観光振興策として、市民モニターを対象にお試しクーポンを発行し、体験型観光メニューの充実を促進しました。



このほかにも、次の事業を行いました。

- 家賃支援金事業 ○タクシー事業者及び自動車運転代行業者支援金事業 ○宿泊施設等新型コロナ対策支援事業
- 降灰地域防災宮農対策事業補助金 ○森林経営管理推進事業 ○ECサイト・ホームページ導入等支援事業 など

4 健やかに暮らせる 安全で安心なまち

①子育て世帯への臨時特別給付事業

〔9,613,012千円〕

新型コロナウイルス感染症の影響を受けている子育て世帯に対して、児童1人当たり10万円を給付することにより、子育て世帯の支援を行いました。

②住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金事業

〔7,226,227千円〕

令和3年度の住民税非課税世帯及び新型コロナウイルス感染症の影響を受けて家計が急変し非課税世帯同様の事情にあると認められる世帯に対して、1世帯当たり10万円を給付することにより、速やかに生活と暮らしの支援を行いました。

③新型コロナウイルスワクチン接種事業

〔3,395,410千円〕

新型コロナウイルス感染症のまん延の防止を図るため、接種体制の確保を行い、ワクチン接種を順次進めました。



④認知症あんしんサポート事業〔167千円〕

認知症などにより行方不明となった方の早期発見のため、市LINE公式アカウントを活用した情報配信を開始しました。

⑤感染症予防医療事業〔765,329千円〕

感染症の発生予防やまん延防止を図るため、新型コロナウイルスのPCR検査等の費用や入院患者医療費の自己負担分について公費負担を行うとともに、相談業務を行いました。

⑥救急救命体制の充実・強化事業〔41,385千円〕

救急救命体制の充実・強化を図るため、中央本署及び谷山分遣隊に救急隊を配置しました。

⑦母子健康手帳アプリ導入事業〔398千円〕

乳幼児の成長記録等のデジタル管理や子育て等に関する情報が取得できる母子健康手帳アプリを導入し、健診等の受診促進や保健指導の拡充など切れ目ない支援の充実を図りました。



このほかにも、次の事業を行いました。

- 妊産婦寄り添い支援事業 ○すこやか長寿健康支援事業 ○セーフコミュニティ推進事業
- 在宅重度心身障害児家族支援事業 ○保育士等処遇改善補助事業
- 新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金支給事業 ○保育所等感染予防対策充実事業 など

5 学ぶよろこびが広がる 誇りあるまち

①特別支援教育体制推進事業〔245,886千円〕

特別支援教育に係る協議会や巡回相談等を実施するなど、支援体制の充実を図るとともに、教育上特別な配慮を必要とする児童生徒に対する支援の充実を図るため、新たに看護師資格を有する特別支援教育支援員を増員しました。

②電子図書館サービス導入事業〔10,121千円〕

インターネットを通じて電子書籍の検索・貸出等が可能な電子図書館サービスの導入を行い、市民サービスの向上を図るとともに、新型コロナウイルス感染症対策及び視覚障害者等に対する読書環境の整備を推進しました。

③ICT環境整備事業〔1,062,315千円〕

GIGAスクール構想に基づき、小・中・高等学校の児童生徒のタブレット端末等の整備を実施しました。



④性の多様性啓発支援事業〔500千円〕

⑤パートナーシップ宣誓制度の導入（ゼロ予算）

一人ひとりの人権や多様性が尊重され、安心して暮らしていける鹿児島市を実現するため、パートナーシップ宣誓制度を導入するとともに、啓発冊子等を作成し、市民等の性の多様性に関する理解促進を図りました。

このほかにも、次の事業を行いました。

- 校舎・屋体等整備事業 ○寺山炭窯跡災害復旧事業 ○教育の情報化推進事業 ○特別国民体育大会等準備事業
- 地域の文化芸術サポート事業 など

6 市民生活を支える 機能性の高い快適なまち

①千日町1・4番街区市街地再開発事業

〔2,824,573千円〕

②千日町1・4番街区再開発ビル保留床取得支援事業〔610,900千円〕

組合が行う再開発ビルの本體工事等や、民間事業者が行う保留床取得に対し助成しました。

③鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業〔600,957千円〕

鹿児島駅前広場及び上本町磯線の工事等を進め、令和4年3月に鹿児島駅周辺の整備を完了しました。



④天文館図書館整備事業

〔1,538,099千円〕

天文館図書館の什器等の設置工事やシステムの整備等を行いました。

⑤鹿児島中央駅西口地区周辺道路整備事業

〔476,493千円〕

鹿児島中央駅西口地区におけるまちづくりの基本的な考え方を踏まえ、円滑で安全な通行環境を確保し、にぎわいが感じられる魅力あふれる都市空間を創出するため、周辺道路の整備を行いました。



このほかにも、次の事業を行いました。

- 呉服町2・3番街区駐車場整備支援事業 ○鹿児島中央駅周辺一体的まちづくり推進事業
- 浜町1番街区再開発事業 ○路線バス廃止地域支援事業 ○田上小学校周辺面的整備調査検討事業
- かごしま団地みらい創造プラン推進事業 など

令和3年度決算の状況

| 区分 | 歳入(A) | 歳出(B) | 形式収支(C=A-B) | 翌年度繰越財源(D) | 実質収支(C-D) |
|------|---------------|---------------|-------------|------------|------------|
| 一般会計 | 3,079億9,320万円 | 2,973億9,997万円 | 105億9,323万円 | 16億3,608万円 | 89億5,715万円 |

| 区分 | 歳入(A) | 歳出(B) | 形式収支(C=A-B) | 翌年度繰越財源(D) | 実質収支(C-D) |
|----------------|---------------|---------------|-------------|------------|-------------|
| 特別会計 | 1,352億9,027万円 | 1,366億8,904万円 | △13億9,877万円 | 5,859万円 | △14億5,736万円 |
| 土地区画整理事業清算 | 756万円 | 714万円 | 42万円 | 0 | 42万円 |
| 中央卸売市場 | 33億6,466万円 | 32億7,638万円 | 8,828万円 | 5,859万円 | 2,969万円 |
| 地域下水道事業 | 8,377万円 | 7,279万円 | 1,098万円 | 0 | 1,098万円 |
| 桜島観光施設 | 4億8,272万円 | 4億8,272万円 | 0 | 0 | 0 |
| 国民健康保険事業 | 668億4,640万円 | 696億8,048万円 | △28億3,408万円 | 0 | △28億3,408万円 |
| 介護保険 | 557億2,407万円 | 546億6,841万円 | 10億5,566万円 | 0 | 10億5,566万円 |
| 後期高齢者医療 | 85億4,448万円 | 84億7,578万円 | 6,870万円 | 0 | 6,870万円 |
| 母子父子寡婦福祉資金貸付事業 | 2億3,662万円 | 2,534万円 | 2億1,128万円 | 0 | 2億1,128万円 |

| 区分 | 収入(A) | 支出(B) | 差引(A-B) |
|---------|-------------|-------------|------------|
| 企業会計 | 505億3,590万円 | 492億2,187万円 | 13億1,403万円 |
| 病院事業 | 242億3,508万円 | 239億7,341万円 | 2億6,167万円 |
| 交通事業 | 34億4,443万円 | 39億1,248万円 | △4億6,805万円 |
| 水道事業 | 111億6,062万円 | 94億6,077万円 | 16億9,985万円 |
| 工業用水道事業 | 1,066万円 | 678万円 | 388万円 |
| 公共下水道事業 | 98億1,179万円 | 92億8,962万円 | 5億2,217万円 |
| 船舶事業 | 18億7,332万円 | 25億7,881万円 | △7億549万円 |

※ 企業会計は収益的収支を税抜き額で表示しています。

【ポイント】

一般会計は、歳入額から歳出額を差し引いた額（形式収支額）は106億円ですが、ここから翌年度で支払わなければならない繰越財源16億円を引いた額（実質収支額）は、90億円となり、前年度に引き続き黒字を確保しました。

特別会計は、国民健康保険事業特別会計において28億円の赤字となりましたが、令和4年度からの繰上充用で対応しました。また、その他の特別会計は黒字又は収支均衡となりました。

企業会計は、交通事業、船舶事業において赤字となりましたが、その他の企業会計は黒字を確保しました。

一般会計

市の会計の基本であり、福祉、医療、教育や道路・公園の整備など基本的な行政サービスを行う会計です。主な収入は、市税や国・県支出金などです。

特別会計

特定目的のための会計で、国民健康保険税や介護保険料など特定収入があり、一般会計から切り離して、その収入・支出を管理する会計です。
〔3年度 8会計〕

企業会計

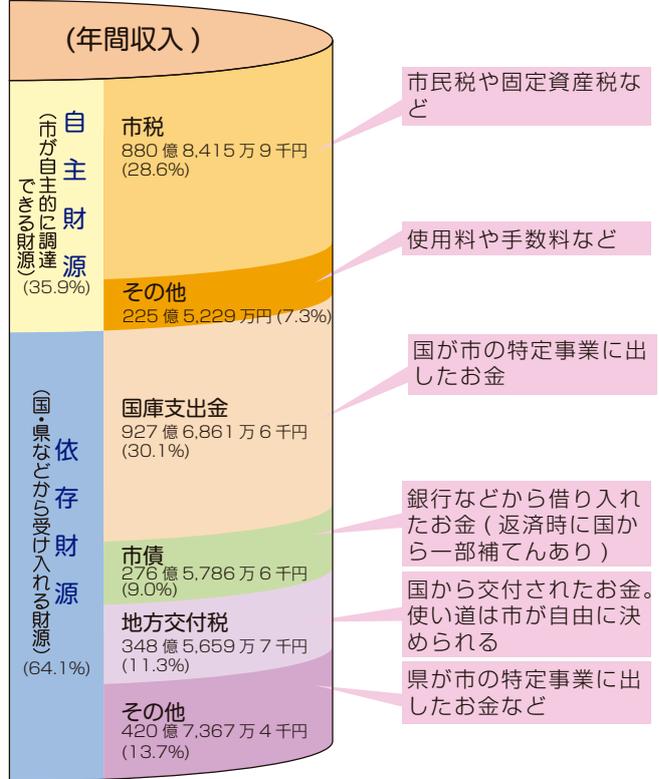
地方公営企業（市立病院、交通局、水道局、船舶局）の会計で、民間企業と同じように、事業で収益をあげて運営する会計です。
〔3年度 6会計〕

一般会計決算額の内訳

歳入：国庫支出金が減少
歳出：民生費が増加

歳出
2,973 億 9,997 万 4 千円

歳入
3,079 億 9,320 万 2 千円



【歳出のポイント】

歳出総額は、2,974 億円で、前年度比 493 億円（14.2%）の減となりました。

歳出で最も多いのは、社会保障関係経費である子育て支援や生活保護費などに使われる民生費の 1,493 億円で、前年度と比較し、165 億円（12.4%）の増となりました。民生費の一般会計全体に占める割合は 50.2% になりました。

【歳入のポイント】

歳入総額は、3,080 億円で、前年度比 444 億円（12.6%）の減となりました。

歳入で最も多いのは国庫支出金の 928 億円ですが、特別定額給付金事業に係る収入などの減少により、前年度と比較し、453 億円の減になりました。一方、地方交付税が 50 億円の増となりました。

市民 1 人当たりの使い道は？

1 人当たり約 4 億 9 千万円のうち、福祉の充実に約 2 億 4 千万円

一般会計の歳出決算額 2,974 億円の使い道を市民 1 人当たりへ換算してみました。

市民 1 人当たり 約 49 万 6 千円の使い道

○子育て支援や高齢者の医療など福祉の充実に
約 24 万 9 千円



○市債の返済に
約 4 万 7 千円



○区画整理や道路、公園などの整備に
約 4 万 3 千円



○環境や衛生の向上に
約 4 万 2 千円



○教育の振興に
約 3 万 2 千円



○商業・観光・農林水産業の振興に
約 1 万 9 千円



○消防・救急に
約 1 万円

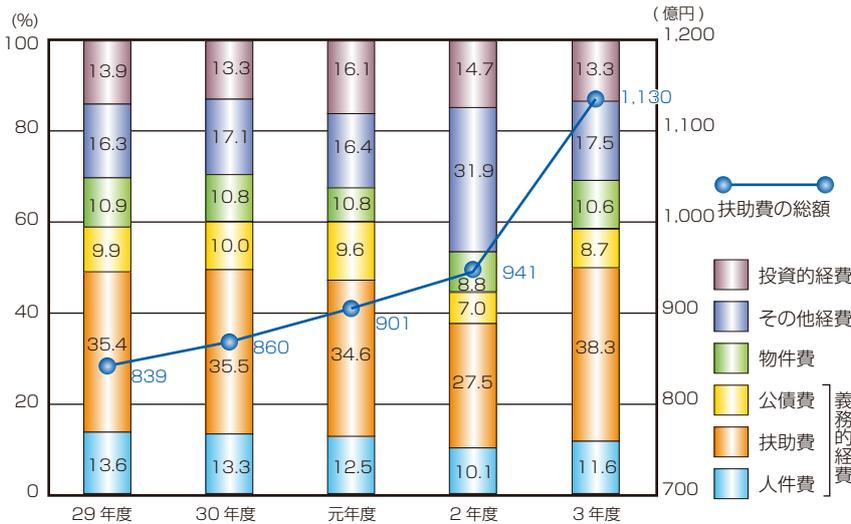


○市の運営などに
約 5 万 4 千円



歳出決算（性質別）の推移（普通会計）

扶助費は年々増加



【歳出決算のポイント】

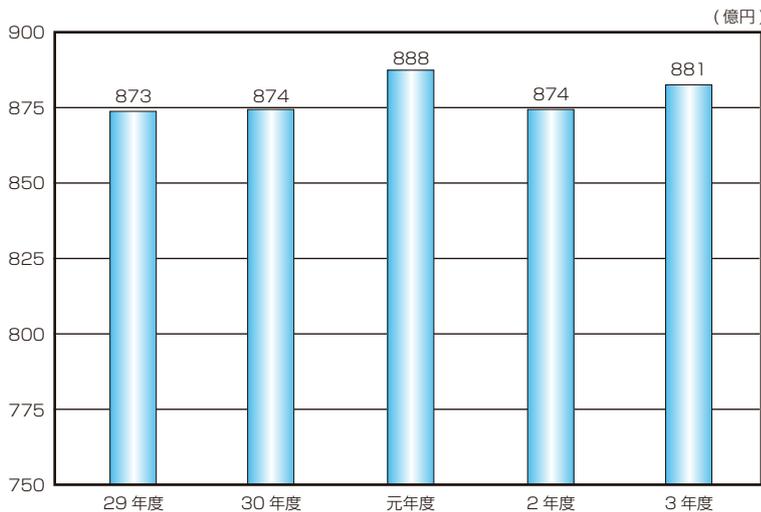
生活保護や子育て支援、高齢者の医療などの扶助費が、前年度に引き続き増となっています。3年度決算では、全体の38.3%を占めています。また、特別定額給付金事業の皆減により、その他経費の割合が少なくなっています。

■用語メモ

「普通会計」とは、各市町村の決算状況を統一的に比較するために地方財政統計で用いられている会計区分です。
鹿児島市では、一般会計のほか、土地区画整理事業清算、地域下水道事業、母子父子寡婦福祉資金貸付事業の3特別会計を合わせたものです。

市税の推移

3年度は前年度より7億円増加



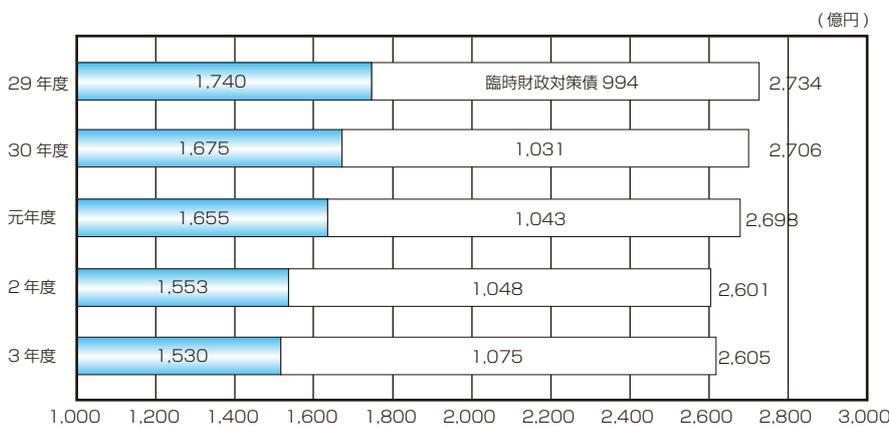
【市税のポイント】

市税は鹿児島市のまちづくりを行うための最も重要な財源で、市民税や固定資産税、都市計画税などがあります。

3年度決算は、市たばこ税が増加したことなどにより、前年度より7億円増の881億円、歳入全体に占める割合は28.6%となりました。

市債残高の推移

実質的な残高は減少傾向



- グラフの右部分は実質的な地方交付税である臨時財政対策債です。
- 左部分は臨時財政対策債を除いた残高です。

【市債残高のポイント】

市債は、道路や公園などを整備するに当たり、将来の市民の皆さんにも公平に費用負担をしていただくため、また、返済時に国から地方交付税が配分される観点から発行しました。

臨時財政対策債を除く実質的な市債残高は、1,530億円となりました。

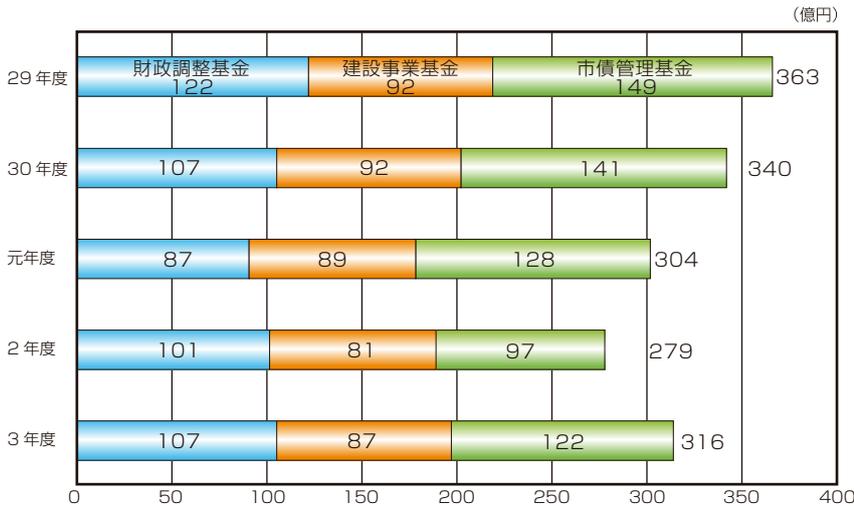
(市民1人当たり26万円となりました。)

■用語メモ

「臨時財政対策債」とは、本来は地方交付税として、国から配分されるお金を国の財政上の都合で市が借りているものです。返済はすべて国の負担です。

基金残高の推移

3年度は前年度より37億円増加



【基金残高のポイント】

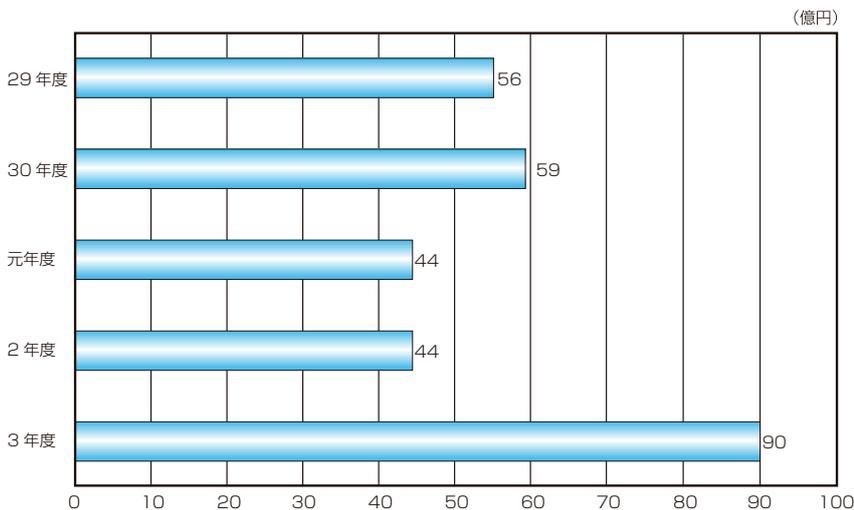
基金は、一般家庭の貯金に相当するもので、左の3基金については、必要に応じて積立てや取崩しを行っています。

この3基金は、少子高齢化、人口減少、社会保障関係経費の増加、公共施設等の適正管理、災害などに対処していくために必要な財源です。

3年度の残高は、前年度から37億円増加し、316億円になりました。(市民1人当たり5万円となりました。)

実質収支の推移

3年度は90億円の黒字を確保



【実質収支のポイント】

事務事業のしゅん別や見直し、経費の効率的な執行を行ったほか、可能な限りの財源の確保に努めたことなどにより、3年度決算では、90億円の黒字額を確保し、引き続き、健全財政を維持することができました。(国に返納する国庫支出金の超過交付分27億円含む。)

■用語メモ

「実質収支」とは、その年度の決算で、収支が赤字か黒字かを示す指標で、歳入と歳出の差引額から、翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた額をいいます。

令和3年度決算のまとめ

本市の3年度決算は、前年度に引き続き黒字を確保し、実質的な市債残高も減少するなど、健全な財政運営を維持する中で、さまざまな施策を積極的に推進し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と社会経済活動の両立及び市勢の発展に努めました。

引き続き同感染症への対応や今後見込まれる社会保障関係経費の増大など、財政状況は、厳しさを増していくと思われませんが、可能な限り、各面からの財源を確保し、事業のしゅん別や見直しを行い、健全な財政運営に努めてまいります。

★鹿児島市の予算や決算の状況は、市ホームページでご覧いただけます。

<https://www.city.kagoshima.lg.jp/>

(【トップページ】→【市政情報】→【予算・決算・財政】→【財政状況】)



健全化判断比率と資金不足比率

※毎年度、「健全化判断比率」と「資金不足比率」を公表しています。

● 健全化判断比率

【健全化判断比率のポイント】

市の財政の健全度を測る指標で、基準を超えた場合、計画を定めて財政対策に取り組むこととなります。すべての項目で、早期健全化基準内となっています。

| 4指標 | 内 容 | 3年度決算（速報値） | | 早期健全化基準 (IIO-カード) | 財政再生基準 (LITD-カード) |
|----------|--|------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| | | | 中核市順位 | | |
| 実質赤字比率 | 一般会計などの実質赤字の比率 | — | — | 11.25% | 20.0% |
| 連結実質赤字比率 | 全会計の赤字や黒字を合算した実質的な赤字の比率 | — | — | 16.25% | 30.0% |
| 実質公債費比率 | 借入金（地方債）の返済額やこれに準じた額の大きさを示す比率 | 3.8% (3.0%) | 23位/62市 (15位/60市) | 25.0% | 35.0% |
| 将来負担比率 | 一般会計などの地方債や将来支払う可能性がある負担などを加味した実質的な負債の比率 | 25.6% (37.3%) | 30位/62市 (30位/60市) | 350.0% | |

※（ ）内は2年度決算

● 資金不足比率

【資金不足比率のポイント】

公営企業会計の財政の健全度を測る指標で、基準を超えた場合、計画を定めて経営改善に取り組むこととなります。3年度決算では、船舶事業特別会計において資金不足額があるものの、経営健全化基準内となっています。

| 公営企業会計 | 3年度決算 | 経営健全化基準 |
|---------|-------------|---------|
| 船舶事業 | 2.0% (—) | 20.0% |
| 病院事業 | — (—) | |
| 交通事業 | | |
| 水道事業 | | |
| 工業用水道事業 | | |

※（ ）内は2年度決算

～「かごしま市決算のあらまし」の作成に当たって～

60万市民の皆さまからお預かりした大事なお金。

市民と協働のまちづくりを進めていくために、大切にに使わせていただきました。

これからの「予算」だけでなく、取組の成果である「決算」を見やすく、わかりやすくお伝えし、あすの鹿児島市につなげていくために「令和3年度決算のあらまし」を作成しました。

市政の主役である市民の皆さまのさまざまなご活躍を、健全財政の維持と創意工夫を凝らした行財政運営で、これからも支えてまいります。

令和3年度決算のあらまし

編集／発行：鹿児島市財政課

〒892-8677 鹿児島市山下町11-1 ☎099-216-1155

リサイクル適性の表示：紙へリサイクル可